



親のほめ力、大人のほめ力 ～ もっとほめよう！！日南の大人～



先週号に引き続き、「ほめ力」アップのための『ほめ方ステップアップ講座（その2）』を掲載いたします。ぜひ参考にさせていただき、子どもたちがほめられたと実感できるようなほめ方を実践してみてください。今週は、「実践ほめポイント」を掲載いたします。

「実践ほめポイント」

ポイント1：結果をほめる

一般的なほめポイントです。できたことは素直にほめましょう。

ポイント2：大変な思いをほめる

やってもできなかったり、勝負に負けると一見ほめにくいものです。しかしそういう時こそ、がんばりをほめてあげましょう。失敗を恐れず、努力を重ねる子になります。結果よりも過程（プロセス）です。

ポイント3：能力でなく努力をほめる

能力をほめられると、それ以上がんばろうとは思いません。しかし、努力をほめられると、もっと努力をしようと思えます。「頭いいね」よりは「がんばったね」とほめましょう。

ポイント4：自発的な行為をほめる

一見当たり前なことでも、子どもが自発的にした行為はほめましょう。

ポイント5：人格をほめる

「優しいね」「元気だね」など、人格をほめて自己肯定感を促してあげましょう。

ポイント6：どんな工夫をしたのか聞いてみる

毎回ではありませんが、ほめた後にどうやってしたのか聞いてみることで、行為を再確認させ、他の行動に応用しようという考えに転移させましょう。

（参照：宮野茉莉子氏「ほめ方の極意」）

「やってはいけないほめ方」

ポイント1：他人と比較してほめる

何に対しても「他人に勝てばほめてもらえる」と思うようになります。人の目を気にしたり、攻撃的になったり、目的を見失う子になってしまいます。

ポイント2：物でつるほめかた

「物を手に入れるために頑張る」と思うようになります。目的を見失う子になってしまいます。

ポイント3：能力をほめない

能力をほめられると、それ以上がんばろうとは思いません。「本当に頭がいいのね!」「あなたはすごいわ。勉強しなくてもよい点数が取れたんだから」など、努力しなくても結果がよければよいと思ってしまいます。また、結果が悪いと「利口」でないと思い、プレッシャーを与えてしまいます。



「親は子どもの応援団長」
「大人は子どもの応援団」



ほのぼのとした
家庭

俵万智さんと息子さんの会話から

テレビで話題になった俵万智さんの親子の会話。親子のほのぼのとした様子が目に浮かびます。どうか読んでみてください。

◇iPadのWiFi環境を、ちゃっちゃと整えてくれた息子（小3）。「目に見える線につながっているのが有線、WiFiみたいのは無線だよ。」と教えてやったら、寝る前に「有線で、お願いします。」と手をつないできた。



◇宿題を少しやっては「疲れた～」と投げ出す息子。「遊んでるときは全然疲れないのね。」とイヤミを言ったら「集中は疲れるけど、夢中は疲れないんだよ!」と言い返されました。

◇「ラッスンゴレライ!」というナゾの言葉を連呼する息子。「ちょっとまって、ちょっとまって、おかあさん♪ ラッスンゴレライてなんですかのん?」いや、こっちが聞きたい。